



根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN より、前回発進したコンテンツ

『氣多大社&モーゼパーク』から、何となくまだ続いているような気がする

今回の目的地は、“大野湊神社”です(^^) / 続編では？という根拠は、今のところありません(笑)

自身は2017年になって、3Dの仕事に限界を感じ、20年続けてきた会社を辞めました

その後一年半近く、真に自己が求めるもの=天職(ミッション)では？と感じる“アセンション”というテーマに

夢中で取り組み、とても充実した日々を過ごしましたが、無収入のまいつまでもいられる訳もなく

これまでとは全く違う業種を選び、契約社員として働きはじめました

職場は、自宅から車で5分程の場所にあつたので、朝夕・時間的余裕があり

すごく有難かったのですが、今年5月、急に契約終了を告げられ、

ラッシュの時間帯に巻き込まれてしまう、少し遠い場所への移動となってしまったのでした！ あじゃ~(^^) ;

前置きが長くなりましたが、その新しい勤務地のすぐ傍にあつたのが



おのおのみこと
みちびきの神“大野湊神社”です！

2012年に一度訪れているのですが、すっかり忘れてしまっていて

最近まで、まったく気づかないままでした

現地に出かけること(根源の光のポータルとなる事)、そして、その後のコンテンツ作成まで、全ての行程が

高次との、リアルタイムのコ・クリエーション(協働創造)であり

誰かの、何かの役に立つことが出来れば、最高に嬉しい！！という気持ちしかないのですが

後になって、あれっ？もしかして、自分が進化しているのでは？と思う事があります

自身のコンテンツの最後に記す、“皇美”という名前は
2016年になって、NMCAA メインファシリテーターである Ai 先生とのご相談、ご指導の中から
なんとな～く浮かんできた？ ホーリーネーム(呼び名)ですが
あまりにも仰々しい(地上セルフの中身がともなっていない！笑)ので、“善美”という
もう一つの神界名をいただき、アカデミーではそちらを使用してきました
名前は、ただの名前とも言えますが、言霊であり、住む世界(次元)を表すものでもあります
意味が全くわかっていない地上セルフは呑気なもので、いつの間にか勝手に“皇美”と記していて、あれっ？！

前回コンテンツでは、なんと！本文中に登場して、自身がビックリ？！
根源母神(根源天照皇太神)に最も近い、その分御魂である自己の“御神体”の名前が“皇美”であり
その姿が、はじめて見えてきた？！(Ai 先生 = 根源のカーちゃんには見えていた?) そんな気がしています^^
宇宙規模の、女性性と男性性の統合・進化へのフォーカス！！
自分で言うのもなんですが、これはとてつもなく大きな意識の飛躍 = 大アセンション！ではないでしょうか？

自身の中今の思い(願い)を、誰に何と言われようと表明する！
これまでの人生でしてこなかった事をした、その現れであるような気がします

「決して魂にブレーキをかけるな！」

霧島の地で、はじめて明確に感じる事の出来た新 G(艦隊)から、自己の核心へと、
力強く、深く、響き渡る言霊 ——

誰かに迷惑がかかってしまうのでは…、失敗したらどうしよう…、という心のブレーキを外す！
宇宙は究極の愛であり、善なのだから、そうでないものは顕現(実現)しない！安心していいのだと思います^^

大野湊神社は街なかに建っていますが、市指定天然記念物となっている“寺中の森”を社豪とし
一部は緑地公園としても整備されていて、自然環境に恵まれた場所です



大きな第一鳥居は、交通量の多い交差点の真ん前に立ち、すぐ左手には警察署があります
一度訪れてみたのですが、元々の社殿はもっと海よりの場所にあったとされ

大野湊神社がここに至る経緯は、ちょっと複雑？ 私には頭の整理が必要(笑)と感じていました

とりあえず、ライオンズゲートが全開となるという 2021年8月8日

大きなエネルギーワークのチャンスでもあるような気がして、出かけてきました(^)/

“ライオンズゲート”とは、銀河の中心から地球へと降りてくる、膨大なエネルギーのゲートされ

自身の感覚としては、根源太陽の光が、銀河のセントラルサンを通り

地上へと降り注ぐ、黄金の光のシャワー？！

まるで、美と威厳に満ちた“百獣の王ライオン”の、^{たてがみ}光たなびく鬣のイメージです^^



川や草木の清々しさに癒されながら小橋を渡ると、第二鳥居が見えてきます





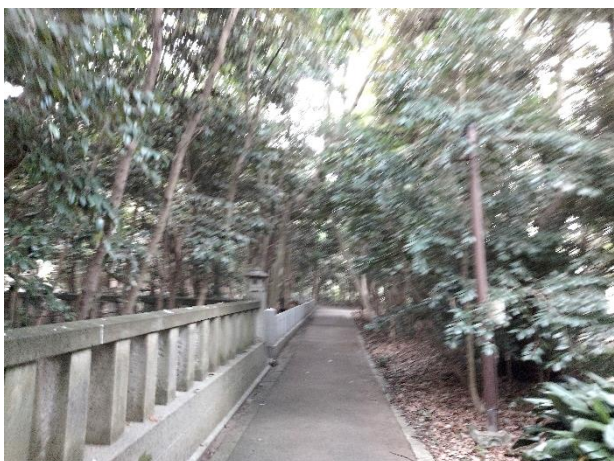
境内に渦巻くエネルギーを感じます



カラスさんもお散歩中？^^



第三鳥居



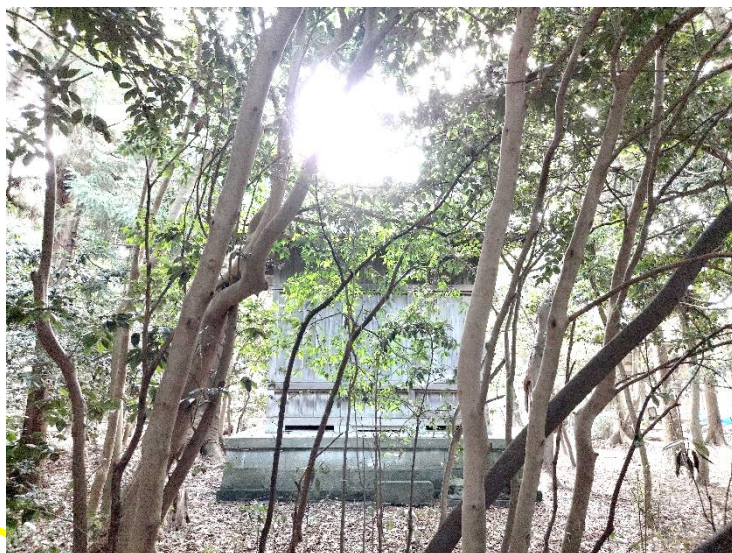
北神門

次元の回廊？と浮かびます

境内摂社“白山社”の裏側です

どこかで見た事があるような。。

伊勢外宮“多賀宮”？



境内脇をグルリと回り
拝殿が正面に見える場所へと
たどり着きました

絵馬堂



根源の愛と光

神馬舎



リアルですが
本物のお馬さんではありません

動き出す日がくるような。。^^



あっ？
ここにも“もう一つの白鷺”？！

車で本殿へと直に向かうには、“隨身門”がある、こちらの入り口が近道ようです



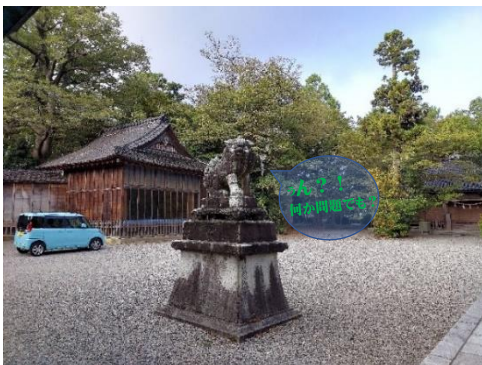
隨身とは、平安時代以降、上皇や摂関、大臣等、身分の高い貴族が外出する際に、警護の為に随従した近衛府の官人との事、隨身がいる神社を身近にしらないので、ちょっと緊張します(笑)

どのようなお姿なのか？横から覗き込んで撮らせていただきました^^ オー、ご立派！

田舎者なので隨身が珍しい、気になる…笑、でもありますが、神社の雰囲気が何となく他と違う気がしていたのは

隨身に、“神(界)”と“人”とをつないでいる中間的存在、“天界”を感じるからなのかもしれません

大野湊神社は、∞の次元が重なる、とてもスケールの大きな神社なのではないでしょうか



私の心の声が聞こえてる？ こちらの狛犬さんにもご挨拶を！^^

右手には、由緒碑と手水舎が

左手には能舞台があり、大野湊神社の神事能は、慶長9年(1604)二代藩主前田利長公の時代から続く

金沢市無形民俗文化財にも指定されている、大変貴重なものであるようです



右手に折れて進むと、拝殿が見えてきます

拜殿手前に、
中心からえぐり取られたかのような
なんとも痛ましい感じのする、木があったので
真ん中に光の柱を立て、支えてみました^^
元気(元の木)にな〜れ!



歴史を感じる、風化寸前?の狛犬さん



拜殿の向こう側に、三つの社殿が並んで建つようです



私がここに感じるのは、大海原——

大海原を切り開いて進む、偉大なパワーの象徴が、御祭神でもあり
大野湊神社が、導きの神“猿田彦大神”を第一に謡っている、理由であるような気がします
大海原とは、“大宇宙”の事でもあるのではないのでしょうか？

大野湊神社創建の経緯について、由緒書に記されている内容を整理してみたいと思います^^

まず、一番最初は、大野郷(旧宮腰、現金石町)と呼ばれる場所に
神明社(ご祭神…天照大神、創建は不詳)があり

その傍に、聖武天皇神亀4年(727年)、猿田彦大神を勧請し、大野郷の湊の守護神としたのがはじまりで
天照大神と猿田彦大神が合祀された時点から、“大野湊神社”と呼ばれるようになった

次に、後深草天皇建長4年(1252年)社殿が炎上し

離宮八幡宮(ご祭神…応神天皇)があった現在地に、移遷された

これらにより、神明社、猿田彦神社、八幡社が一つとなったものが、現在の大野湊神社で

その後(一向一揆により)荒廃したが、加賀藩主前田家によって再興され現在に至っている、との事です

この碑の中には出てきませんが、大野湊神社では“猿田彦大神”を祀る社を、“佐那武社”と呼んでいて
なぜそう呼ぶのか？その辺が、私の頭のゴチャゴチャ感の要因であるようです

大野湊神社さんホームページより、以下抜粋しました

大野湊神社は、神亀4年(727)陸奥の人、佐那(さな)が航海中に、猿田彦大神の出現を感じ、

海辺の大野庄真砂山竿林おおのしょうまごやまのぼりに存していた神明社の傍らに、一祠を建立し

勧請したことをその創祀としている延喜式内社です。

この神明社、即ち天照坐皇大御神を奉斎した社の創立年代は不詳ですが、

おそらく飛鳥朝時代であると考えられています。

この猿田彦大神を合祀してより、天平元年(729)には天に達し、「佐那武大明神」さなたけだいみょうじんの称号を賜りました。

しかし建長4年(1252)社殿が炎上したため、離宮八幡宮(現在の社地)に遷座されました。

大野湊神社創建のきっかけは“佐那”とされる人物にある？

“佐那神社”と呼ばれるものがあつた気がしてネット検索してみると、なんと、
氣多大社の境内社“楊田神社”でフォーカスした、あの“天手力男命”を祀る、三重県の神社でした

佐那神社について、神社本庁由緒書より

当神社には天手力男命を主神として、天宇受賣命など23柱祭神不詳2座をお祀りしています。

当社の創立年代は不詳ですが古事記に「次手力男神有坐佐那県也」と記載されており、また、延喜式内社であり、

当社のことを中宮と呼び、高大な樹木が生い茂っていたことから大森社などとも呼ばれて、

千有余年を経過した古社であることも明らかです。

また、神宮、特に外宮とは徳川時代初期に至るまで深いかかわりがありました。

即ち、神宮の宮造使によって、20年に一度の社殿造り替えに預かった12社中の1社であったこと、

齋宮の祈年祭にも預かれる神社であったこと、外宮祢宜の勞社として祝の制を定め、神田を設け、

毎年2月神事が行なわれていたこと、などから分かります。

明治41年ここ佐那神社に村内各字の神社を合祀、昭和18年県社に列せられ、戦後宗教法人となっております。

天宇受賣命という名前が出てくることから、ようやく猿田彦大神につながつた気がしますが
大野湊神社さんホームページに、「佐那(さな)が航海中に、猿田彦大神の出現を感じ」とあることから、

“佐那”と“猿田彦大神”は、別の存在のように感じられるのですが…？

天手力男命は伊勢内宮に、“栲幡^{たくはたちちひのみこと}千千姫命”(瓊瓊杵尊の母)と共に、相殿神として祀られていることから

その夫とされる、“天忍穂耳尊”なのでは？と、なんとなく感じていました

“アマテラスとスサノオの誓約”の際に、アマテラスが身に着けていた玉から生まれた五皇子の長男ですが

天照大御神の孫である“瓊瓊杵尊”の陰に隠れて、あまりメジャーでない(笑) 気がします

“天手力男命”と“天忍穂耳尊”が異名同神(トンデモ?)とすれば、天の岩戸から天照大御神の御光を世に顕現した
大功労者であり、また天孫降臨の際にも随従したとあり、縁の下の力持ち的存在と言えるのではないのでしょうか？

天神七代(天地開闢に関わる七代の神々)に続き、神武天皇以前に日本を治めた五柱の神々とされる

地神五代(天照大神・天忍穂耳尊・瓊瓊杵尊・彦火々出見尊・鷓鴣草葺不合尊)の中で

私の意識から抜け落ちていた天忍穂耳尊が浮上し、歴史がつながっていく(統合されていく) 感じがします^^

正直、ネットで歴史の詳細について調べれば調べる程、様々な説が出てきて

何故かネガティブ(憂鬱)になっていく…(やる気がなくなっていく、笑)のですが、今それは必要か？です

私はそれらの真偽を証明する為にあるのではなく、より楽しく、有意義な未来を生きる為にある！

新しい地球の未来を創造していく5次元人、神々の真の願いと一体化した神人となって行く！です^^

私にとって、「陸奥の佐那」とは、みちのく(道の奥)からやってきた“天手力男命”であり

スサノオとアマテラスの間に生まれた、天忍穂耳尊でもあります！

天忍穂耳尊が、猿田彦大神と出会い、天照大神と合祀して誕生したのが“大野湊神社”

天照大神と瓊瓊杵尊によって成された、日本にとって、とても重要な意味を持つ“天孫降臨”につづいて

今度は、スサノオ率いる国津神が中心となって世界を立て直していく、“天子降臨”の時なのでは？！

これも神の経緯(各時代における統合計画、根源へのアセンションの一行程)の一つであり、

何故“天孫”なんだろう？と不思議に思っていた答えかもしれません^^

今浮かんだのが、“佐那”とは“サナート・クマラ”でもあった？！と

サナート・クマラは、人類の進化を司るアセンディッド・マスター、地球ハイラーキーの長とされます

天之御中主神(宇宙神)——国常立大神(地球神)——素戔嗚大神(地球神分神)

神界は創造の源であり、天界はその具体的働き、神の使者と言われ、その名前が“サナート・クマラ”！

中今、地球アセンション号を、大宇宙という大海原へと導く総合司令官です^^

アセンションとは、究極には、宇宙の一なる根源への回帰であり、あらゆる次元を統合して帰っていく道のり

サナート・クマラのハイアーセルフは、シリウス・ロゴスである“ヴァイワマス”とされ

シリウスは私にとって、地球から根源へと帰る中継点なのだと思います

それぞれの人々が、ディセンション(根源から分化、多様化)してきた宇宙史を、再び統合していく

そこには、地上セルフには想像もつかないほどのつながり、大きなネットワークがあり

それらすべての救済(カルマの解消)でもあり

根源がそのまま降りている“中今の地球”、ここに生きている私達にしか出来ない事！

今全宇宙から絶大なる応援、サポートの手が差し伸べられている、理由でもあるのではないのでしょうか？

大野湊神社の起点(核)は“神明社”であり、ご祭神は“天照皇大御神”、相殿神は“瀬織津姫”

(伊勢)神宮内宮、そのままの姿であるような気がします^^

私が感じる“瀬織津姫”は、女性性のはじまり、イヴであり、瀬織津姫の根源への回帰

= 究極の母性性である、“根源天照皇太神”との統合こそが、

全人類、全宇宙が目標とする“根源へのアセンション(回帰)”の雛形とも言えるのではないのでしょうか？

だから瀬織津姫はこれまで、大切に、秘め、守られてきた、そんな気がします

道開きの神とされる猿田彦大神は、日本人離れした、天狗のような風貌をしていたところから、

ユダヤ人？であるとか、キリスト？との説もあるようで

統合(アセンション)のリーダーシップをとる、様々な男性性の象徴のような存在なのかもしれません

猿田彦と天鈿女命(天宇受賣)、伊邪那岐と伊邪那美、饒速日と瀬織津姫。。

見る側によって何にでもなる、根源への確かな金字塔？！

「金字塔とは、エジプトのピラミッドを意味する言葉」とあり、まさにピラミッド(天界)の頂点

地球ハイラーキーの長、サナート・クマラでは？！^^

大野湊神社境内には、春日社、西宮社、白山社、荒魂社の4つの境内社があり、

今回フォーカスされたのが、“白山社”でした



どの社なのか知らずに近づいていったのですが、独特のパワーを感じ、やっぱり！



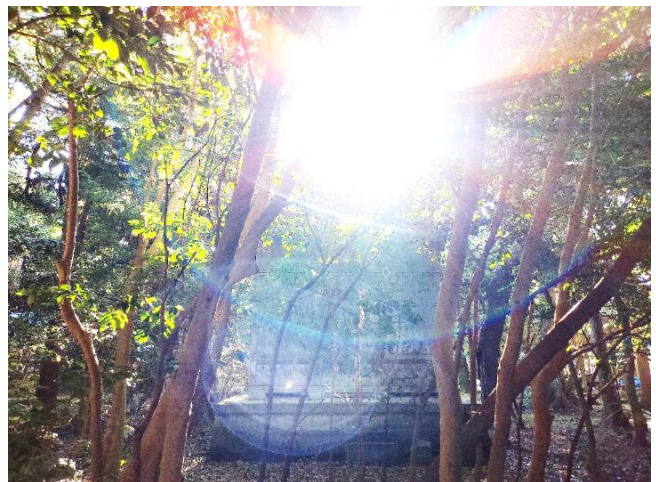
木漏れ日によって描きだされた細やかな模様がステキで、なんとなく西洋の神殿が連想されます^^



燃え上がる炎の神殿?! “昇天”のイメージ——

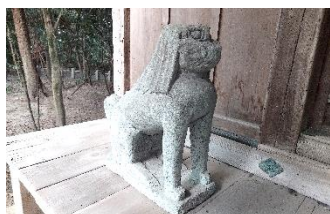
そのまま陽の光に溶け込んで、消えてしまいそうな気がします

アセンション=“キリストの昇天”とも言われます^^



裏側から見る社殿も、フオン(球体の光、神界)と微妙な色合いの美しい光線(天界)がミックスされた感じで、とても神聖です

あらっ？柱の陰になっていて気付かなかった、小さな狛犬さん。。。



クレオパトラのような、スフィンクスのような、初めて見る、不思議な姿をしています

“白山狛犬”と呼ばれるもので、白山信仰と関わりが深い、白山麓特有のものであるようです

クレオパトラ(7世、起源前50年頃)は、才色兼備で知られるエジプト王朝最後の女王とされますが、

クレオパトラより遙か昔に存在したと言われる、“ハトシェプスト女王”の事が浮かんできました^^

古代エジプト第18王朝第5代(前1450年頃)ファラオとされ

軍事力によって国を治めるのではなく、平和的外交手腕や、優れた建築物を生み出す才知を持ち

美と平和を愛する、まさに女性性のパワーによって、エジプトを繁栄へと導いた、偉大なる女王であったようです

古代エジプトにおいて、百獣の王ライオンは聖獣とみなされ、その姿を模した“スフィンクス”は

ファラオの守護神として、王座や墓所の回りに置かれていたようで

そのスフィンクスが、インド、中国を経由して、日本へと伝えられたものが、狛犬ではないと言われるそうです

私が、8月8日“ライオンズゲート”を象徴する日に、ここに来よう!と思ったのは、

もしかしたら、スフィンクス=狛犬さんの導きだったのかもしれない^^

古代エジプトやマヤ文明では、ライオンズゲートは“惑星の新年”と呼ばれる、重要な節目であるとの事です

当時のエジプトでは、ファラオ(王)は男性になるものと決まっていた、ハトシェプスト女王は

幼少であった“トメス3世”の摂政のような立場としてありましたが、次第に力を増し、共同統治者となって

公の場へは、付け髭をつけ、男装をして臨んだとされます

ここで、「白山社が伊勢外宮、多賀宮と似ているのでは?」と思った理由がわかりました

私にとって、外宮大神(豊受大御神荒魂)は、勇猛果敢な武将の仮面をかぶった、“女・蘭陵王”

長い間女性である事(女性性)を隠し、戦い続けてきた愛の戦士!ピクッリ重なります!^^

ハトシェプストとは「最も高貴なる女性」の意味で、即位名はマアトカラー「真実とラー神の魂」とされ

「出エジプト記」で、モーゼをナイル川で拾って育てた義母とは、ハトシェプスト女王の事だった?とあり、ビックリ!?

モーゼは、ハトシェプスト女王によって育てられた。。。事実かどうかはわかりませんが、単なる偶然とは思えません

前回コンテンツの続きでは?と感じた理由につながってきた気がします

モーゼ(ユダヤ)、そしてハトシェプスト女王、その先にあるものが見えてきたからです

前回コンテンツの最後に登場した“新G”(UFO)とは、

日本(東洋)とユダヤ(西洋)、神界(神々、マルテン)と天界(マスター方、マルジュウ)が統合された姿であり

“根源天照皇太神”を核とした マルテンジュウ=NMC(新マクロ宇宙)創成システムです

マルテンジュウとは、全てが統合された“神人”(ミクロ宇宙)の事でもあります^^



白山は、一なる至高の根源、究極の愛の太陽“根源天照皇太神”へとつながる母性の山です

古代エジプト神話における最高神、宇宙創造神とされるのは、太陽の化身“ラー”であり、エジプト王としての即位名を「真実とラー神の魂」と名乗ったハトシェプスト女王は、太陽神ラーを通して根源の太陽(根源天照皇太神)とつながっていたのではないのでしょうか

すべてが、根源(太陽)へと帰っていく——

モーゼが故郷日本へと帰ってきたように、もしかしたら、ハトシェプスト女王も白山へと帰ってきたのでは?!

白山狛犬は、女王をずっと護っていたのかもしれませんが… かわいやなー(。)

今年4月にエジプトでは、ハトシェプスト女王も含めた、古代エジプト王ミイラの新博物館への大移動があり、私もその映像をネットで目にし、何故かワクワクしたのを思い出しました
ハトシェプスト女王復活?! 愛と平和の“アクエリアス時代”到来の予感?!

あら? 大野湊神社の白山社には女性性の象徴である、“伊邪那美命”も“菊理姫”の名前もありません?!

何故かしら。。。? 時間が止まっているような…、なんだか寂しい気がします

でも、だから今、私がニニに来た(呼ばれた)のでは?!



“歩く光の神殿”=ライトワーカーであり、私の新しいお仕事? でもあります(^)v

2021.8.15 永遠の愛と光の中で 皇美(善美 rumines)